

みの～れは個性を受け入れてくれる度量がすごい！



演劇ファミリー Myu

さ さ き いずみ
佐々木 泉 さん

「わが家の天ぷら」では
和田利子役を演じる佐々木さん

みの～れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.164

月に入り、ウグイスが鳴き始めました。ウグイスは秋から冬はチャッチャツと鳴いて、春になるとホーホケキョと鳴くようになり、巣作りを始めるそうです。桜のつぼみも少しずつ膨らみ始めいよいよ桜の季節がやってきます。コロナ禍で大変な日が続きますが美しい桜の花に癒やされる日が待ち遠しいですね。今回は、みの～れ住民劇団演劇ファミリー Myu のメンバーで小美玉市羽鳥地区にお住まいの佐々木泉さん取材します。

佐々木さんは羽鳥地区で生まれ育ち、大阪の大学に進学するため一度小美玉市から出て、また故郷に帰ってきました。「地元に戻ってきて、空はこんなに大きかったんだなあ・とか、緑や自然の香りを感じることに幸せを感じましたね。小さい頃お世話になった方がすぐ近くにいたご縁とか、羽鳥駅前で生まれ育ったので、駅前タクシーの運転手さんに『いつの間にか、こんなに大きくなった子どもがいるんだなあ』とか声をかけてもらったり、自治会でも友達の親と一緒に出るようになってお世話になったりと地元に戻ってきて良かったことがたくさんありますね。それと、公立の幼稚園がこの3月で閉園になって、4つの幼稚園が統合してよつば幼稚園になるので、不安もあったのですが説明会に行ったら同級生がいたんですね。友達がいなくて気取らず、気負わず行けるのがすごくあ

りがたいですね。きつとこれは違うところに住居していたら味わえなかった事と感じています。夫に感謝ですね」と笑顔で話してくれました。

佐々木さんが Myu に入団したきっかけを聞いてみました。「入団して数年なんです。最初は子ども3人連れて参加していました。本当は子どもの頃から演劇をやってみたかったんだと思います。恥ずかしい・自信は無かったです。結婚した頃は全く時間がなかったんです。子どもが生まれてから、子どもがいるから、できないとか言いたくなかったし、自分が失敗したり、悩んだり、ジタバタしている姿を見せたかったんですね。だから子どもがいても『やろう』って思っちゃいました」と楽しそうに話してくれました。

公演ができるか？できないか？の状況の中で、少しでも可能性があるのなら・・・とリモートなどを使って歩みを止めずに稽古をしたことに感動しました。ありがたいなと思います。みんな住民で、住民がこまめやるっていうのを観ていただきたいです。今回、出演する日は違うのですが娘が初めて舞台上立つのできどきしています。舞台はパワーや声が振動しています。なんぼの世界だと思えます。お客様がいてくれるからこそ演者に伝わるものがあるので、ぜひ、お客様に観てほしいと思います」と話しました。

幸せの衣に包まれた『わが家の天ぷら』をぜひ、観に来てください。
（藤田佐知子）

3月27日、28日公演の『わが家の天ぷら』にむけて、「コロナで